



看護部長便り～A letter from Ozawatti～

皆さん、こんにちは。2020年度も折り返し地点に入り、後半は「秋の異動」から始まりました。「多機能」を有している当院では、機能によって求められる知識・技術が異なっています。秋の異動の主な対象者は「卒後2年目」の職員になります。新たな分野で経験を積み、それまでの経験も併せて自分が深めたい分野は何か、じっくり考えてほしいと思います。

とはいえ、慣れた環境からあらたなチームに入っていくときには緊張、不安、それまでの経験が通用しない挫折感等、ストレスが大きくなる時もあると思います。そこで今回は、「レジリエンス」について紹介します。「レジリエンス」とは、変形から元の形に戻ろうとする「弾力性」、変化や変動に対する反応としての「復元力」や「回復力」という意味で使われています。人は誰でも落ち込み、心が折れそうになることもあります。しかし、レジリエンスがある人は、その逆境を糧にして成長のチャンスに変えていくことができます。誰もが保有し、どの年代でも伸ばすことができます。皆さん、どうぞ「しなやかな強さ」を身につけ、後半もよろしくお願ひいたします。 小澤



©レジリエ研究所
(英語版.PositiveLives社)

寄り添う心を大切にします！ ICF・介護過程の展開研修①②



平下さん・三須さん

秋晴れの10月4日(日)、ラダー選択コース「ICF・介護過程の展開研修②」を開催しました。

講師は介護教員・教育担当者養成課程研修修了者である2階東病棟の三須恵美子係長と4階西病棟の平下成美副主任、参加者は、熱い思いと学ぶ気持ちを持った4名の介護福祉士さんでした。

講師のお二人に研修の感想をお聞きました。

三須さん『介護過程の展開は、介護福祉士の腕の見せ所です。制限の多い入院生活のなか、患者様の生活をより豊かなものにするためにニーズを導き出し、能力に応じた自立に向けて計画的に支援します。研修参加者から、学びを病棟で共有したいという想いが聞かれました。皆さんの活躍が、介護福祉士仲間の「患者様を理解し支援する楽しさ」に繋がることを願っています。』



参加者のみなさん

平下さん『介護福祉士として基本学習内容ですが、分かったつもりが生じやすく苦手意識をもちやすいテーマかと思います。生活支援のプロとして、他者理解に対して探求心を存分に発揮しながら取り組んで、より良い生活・人生への実現をお手伝いするには必要な内容です。業務をこなすだけの職員にならずに、患者と向き合う事の楽しさを、是非広めてほしいです。』

これからも、1人ひとりに寄り添いながら根拠ある個別支援計画を展開して、介護の専門性を発揮していきましょうね！

鶴巻クイーン、再登場！



10月3日(土)専門看護師・認定看護師バージョンによるトータルケア研修を行いました。クリニカルラダー研修としては初回であったこと、岩川科長が久しぶりに参戦されたということがあり、熱量高めでスタートしました。

午前中は、1つの事例を脳卒中、摂食嚥下、家族、ACPの視点から考えるという、まさしく患者さんご家族をできるだけ全人的に理解したいという思いから、「トータルケア」と研修名を名付けた願いが、受講した方々に伝わったと思えるグループ感のある時間でした。

午後は、とろみを実際に作って試飲したり、COVID-19対応の個人防護具の着脱という2つの演習を行いました。どちらも真剣に、楽しんで取り組む様子が見られました。

最後に看護部長より、各資格の紹介がされ、ケアの中で自分の興味があることを深め、患者さんやご家族、そして同僚に寄与することへの思いが語られました。看護部の職員が生き生きと働くことができるように、来年も企画を考えていきたいと思っています。



看護実習、新たな受け入れ体制

新型コロナ対応のため中止していた看護実習の受け入れを再開するにあたり、新たな取り決めを作り、実習校にもお願ひをしました。学生さんは、実習開始日の2週間前から体調チェックを行い、不要不急の外出を控えて臨まれます。実習中は、検温を2回実施して、マスクとゴーグルもしくはフェイスシールドを着用して見学をしております。3密を防ぐため、新たな待機場所を設けました。

また、休憩中も油断は禁物ということで、施設課の方に依頼して、右写真のように、学生控室にビニールシートを取り付けていただきました！これで、食事やカンファレンス中の飛沫を防ぐことができます。

例年に比べると制限はありますが、臨地でしかできない学びがあるのは間違いないようです。



芸術の秋



1冊の写真集を紹介します。タイトルは「明日なき我が身」。写真家の小川節男さんは、脳出血による右麻痺やステージ4の胃がんがみつかりながらも、写真を撮り続けています。写真集を観た個人的な感想ですが、「生きることのえぐみ」が迫ってきて、改めて生きることについて考えさせられる作品でした。芸術の秋～こんなたしなみ方はいかがでしょうか。

